投 稿 規 定

制　　定：1980 年 5 月 13 日
最終改定：2022 年 1 月 19 日

1．本誌の名称は「中京大学体育学論叢」とする。
2．本誌は、中京大学スポーツ科学部が編集・発行するものとして、1 年に 1 巻を発行する。
3．内容は体育学、健康科学、スポーツ科学などの領域に関するもので、原稿の種別は総説、論文、研究報告、研究資料などとする。
4．投稿有資格者は体育学、健康科学、スポーツ科学などの領域における研究者、指導者、学生とする。
5．原稿は、中京大学研究倫理規程に準じたものとする。人を対象とする研究に関しては、所属機関における倫理審査委員会の承認を得ていることを原則とする。
6．原稿の掲載は審査に附す。なお、審査委員の選定は編集委員会によるものとする。
7．原稿掲載可否と原稿種別の最終決定および編集事務は編集委員会が行う。
8．原稿は横書きとし、その分量は図表や抄録なども含め原則として 30 枚以内とする。
9．引用文献は原則として本文の最後に一括するものとし、その引用の書式は別に定める。
10. 原稿には 250 語程度の欧文抄録および 800 字程度の和文抄録を含める。和文の原稿には欧文の題目、著者名（ローマ字)、欧文の原稿には和文の題目、著者名を添える。
11. 図や表には通し番号とタイトルをつけ、本文とは別にそれぞれ番号順に一括する。図表の挿入箇所は、本文中に明瞭に朱書きで指示する。

「中京大学体育学論叢」投稿の手引き

編集作業に要する時間の短縮と手間の節減のため、また無用な間違いを減らすためにも、下記のような点に注意した上で原稿の作成・提出をお願いします。

1．投稿は原則として電子ファイルによるものとし、電子メールにて編集委員会が指定する宛先に提出する。ファイル形式はPDFファイルを基本とし、次の2つのファイルを送信する。①本文、図、表等の順で全て1つにまとめたPDFファイル（オリジナルファイル)。②オリジナルファイルから、著者名・所属の記載、謝辞の記載を取り除いたファイル（査読用ファイル)。PDFファイル作成が困難な場合は編集委員会に相談すること。

2．原稿の1ページ目には、原稿種別、タイトル、欧文タイトル、著者名、その欧文表記、著者の所属、著者の連絡先を明記する。著者の所属は異なる数の＊を用いて区別すること2ページ目に欧文抄録、3ページ目には和文抄録として4ページ目から本文を開始する。本文および文献表には、ページ下部中央に通し番号、左側には行番号（ページごとに振り直し）を付加する。

3．図表や写真は本文の後に挿入して、1ページあたり1つの図表や写真を配置し（タイトルや説明を含む)、原則としてそのまま印刷・掲載可能であるものとする。

4．欧文抄録は原則として英文とする。欧文抄録も審査の対象となるために、掲載までには著者の責任においてネイティブチェックを受けることが望ましい。

5．文献の引用に関しては原則として以下の書式とする。

・文中に引用した文献は引用順に番号を付け、文末に参考文献としてまとめる。文中においては片括弧を付けたアラビア数字で右肩に示す。

例）＊＊＊＊＊＊＊＊[1,2)].　＊＊＊＊＊＊＊＊[4-6)].

・引用文献の書き方は【雑誌】の場合、著者．題目．雑誌名（巻)：ページ，発行年次とする。筆者は全員記載する（例1、例2)。【単行本】の場合は著者．書名．引用した章などの題目：ページ（欧文の場合発行場所)，発行所，発行年次の順に記載する（例3、例4)。単行本の分担執筆の場合は著者、執筆課題、書名、編者（編者名の後に「編」を入れる。また欧文の場合、書名の前に「In:」を、編者名の後に「Ed.」を入れる)：ページ（欧文の場合発行場所)，発行所，発行年次の順に記載する（例5、例6)。【翻訳本】の場合は、著者名（西暦発行年)「書名」(訳者名)，頁 - 頁，発行所，発行地とする（例7)。原著の書誌データは執筆者が必要と判断した場合に最後に＜ ＞内に付記する（例8)。【新聞】の場合は、執筆者名（示されていない場合は新聞名)．記事・論説の題名・または見出し，『新聞名』，コーナー名（なければ省略)，刊行年月日の順に記載する（例9、例10)。【Webサイト】の場合は、著者名．WEBサイトの題目，URL，発行年（閲覧日）の順に記載する（例11)。

例1）三浦　哉，北川　薫，石川利寛．トライアスロン競技をシミュレートした際の運動後半にみられる呼吸循環応答の特性．体力科学（43)：381-388，1994.

例2）Kiyonaga A, Arakawa K, Tanaka H, Shindo M. Blood pressure and hormonal responses to aerobic exercise. Hypertension（7）: 125-131, 1985.

例3）大西正健．実験でみる生化学．機能する蛋白質：92-110，共立出版株式会社，1990.

例4）Nelson DH. The adrenal cortex: Physiological function and disease: 24-47, Phil-adel-phia・London・Toronto: W.B. Saunders Co, 1980.

例5）鈴木政登，伊藤　朗．運動による利尿状の変化．図説・運動生化学入門．伊藤　朗編：99-110，医歯薬出版株式会社，1989.

例６）Straus E, Yalow RS. Differential diagnosis of hypergastrinemia. In: Gastrointestinal Hormones. Thompson JG. Ed.: 99-113, Austin: University of Texas Press, 1975.

例７）Napoleon.W.「幼児の運動」（友成久徳訳），31-46，ベースボール・マガジン社，東京，1977.

例８）Napoleon.W.「幼児の運動」（友成久徳訳），31-46，ベースボール・マガジン社，東京，1977. <The children love exercise.>

例９）湯浅誠．人材育つ環境大局的に「世界一企業活動しやすい国」に危うさ.『毎日新聞』，くらしの明日，2013年9月4日.

例10）毎日新聞．残業代の支払いルールは？１日８時間を超えたら割増賃金.『毎日新聞』，2014年6月30日日.

例11）文部科学省．平成26年度体力・運動能力調査結果の概要及び報告書について，http://www.mext.go.jp/，2016（2016年6月30日閲覧）.

６．学部・大学院生の論文は指導教員が共同研究者となること。

その他については投稿規定に準じ、また不明な点があれば編集委員会にご相談ください。